

北海道IBD 2005年度運動方針

北海道 IBD の良き伝統である会員同士の出会いと語らいの場を大切にしましょう。友の会は「お互いの顔の見える、会員の意見交換が進む」活動方針を掲げ、事業をします。

1. 創意的な活動で会員の要望に応えましょう。

昨年大成功した「若者企画」や「お母さん集会」など、階層ごとと要望ごとの活動を、開催場所を多様化させるなど発展させ、病気を抱えながらくらす智恵の交流を進め出会いを楽しみましょう。集会の動員数で評価するものではなく内容を更に高めるようにしましょう。

2. 広い北海道、狭い日本、どこでも楽しく北海道 IBD の仲間と会いましょう。

地方支部の運動を盛んにし、また支部のない地域での患者交流の機会(サテライト集会)を更に作ります。道外の現地会員の交流もしましょう。

3. 病気に対する正しい知識を学び、それを生かして実践しましょう。

進歩している医療、絶えず変わる社会保障制度の勉強会を繰り返しましょう。

北海道IBDの伝統である料理教室や新入会員オリエンテーションなどで「食事療法」「気持ち切替え療法」を全ての支部でも広めましょう。

4. 作業の分散と統一により、大勢の参加で創意的な機関誌活動を盛り上げ、会員の心を結び、活性化しましょう。

5. 全国の仲間、北海道難病連や世界の仲間と連帯を強めましょう。

バザーやレク活動など北海道難病連の行事へ積極的に参加し、視野を広げましょう。

IBDネットワークとともにすすみ、全国規模でIBD患者の要望実現を目指しましょう。

6. みんなの要望を明確にし、具体化して各方面への要望を強めましょう。

新薬開発や新治療法普及など国や自治体への要望を明確にし、また札幌市を始め各地の保健所と共同で患者交流会を目指しましょう。IBD 患者の身体障害者適用拡大の取組を検討し、病名告知初期の患者支援を強化します。このほかいろいろな可能性を求めて活動をおこないましょう。